

St.Mary's

セント・マリーズ

創刊号

2010年4月

ご自由に
お持ちください



母子総合医療センター 小児科スタッフ

目 次

INDEX

2-3 創刊ごあいさつ
井手 義雄理事長

診療科訪問
総合周産期
母子総合医療センター

4-7 活動日記

5-6 外来診療体制
.....
8-9 インタビュー
島 弘志院長

健康献立
菜の花の酢味噌和え

10 病気と
向き合う



聖マリア病院 基本理念

カトリックの愛の精神による
保健、医療、福祉および教育の実践
「愛の精神とは主イエズス・キリストの
限りない愛のもとに、
常に弱い人々のもとに行き、
常に弱い人々と共に歩むことです」

診療科訪問

introduction

総合周産期母子総合医療センター 地域の母子医療に全力



聖マリア病院 総合周産期
母子総合医療センター。

統括副院長 大部 敬三

久留米市を中心としたこの地域の強みは、小児救急など母子医療の点で昔から開業医・大学・当院の協力体制がうまくとれていることです。その中で、私たちはより安全で質の高い医療を目指し、初期救急から2次、3次医療まで24時間365日、幅広く受け入れています。医療の結果、患者さんとご家族の信頼を得ることができたときほど、医者冥利に尽きることはありません。信頼関係を築く努力を忘れずに、常に患者さんの立場に立った医療を実践していきたいと思っています。

聖マリア病院中央部の建物にある産科病棟では、母親たちがくつろぎ、赤ちゃんの元気な産声が聞こえています。産科と渡り廊下で結ばれたNICU(新生児集中治療室)には、医療機器を備えた新生児用ベッド33床が並び、その階下にある小児ICU(集中治療室)では、ハイリスク児を囲んで医師や看護師らスタッフが懸命に立ち働いています。



●24時間365日、ハイリスク受け入れ

「地域の母と子のために最善の医療を」との願いを込め、当母子総合医療センターでは、ハイリスクの妊婦・新生児および小児救急の最終的な受け入れ病院としての役割を担っています。その特長は、24時間365日いつでも応じる救急医療と、産科ー新生児科ー小児科の連携による母から小児までの一貫した医療の実践です。



小児ICUで治療に当たる医師と看護師

母子総合医療センター全体では現在、集中治療室をはじめ226床の治療入院ベッドを有しています。スタッフの医師は産科7人、新生児センター7人、小児科9人。さらに小児外科、小児歯科、矯正歯科、小児循環器科も加わった総合的な体制で、母子医療に力を注いでいます。また総合病院の強みを生かし、治療内容によってはセンター以外の部門の医師が駆けつけます。

私たちの活動の原点は皆様方です！



社会医療法人 雪の聖母会
聖マリア病院

理事長 井手 義雄

社会医療法人雪の聖母会聖マリア病院広報誌“St.mary’s”発刊に際しご挨拶申し上げます。挨拶に際しまして簡単に私たちの活動の歴史を述べさせていただきますが、私どもは、1952(昭和27)年医療法人雪の聖母会を設立し「カトリックの愛の精神による医療の実践」を基本理念として翌年、聖マリア病院の運営を開始致しました。

聖マリア病院の開設当初は、当時の国民病でありました結核に罹患されました患者さんの外来および入院治療を主として行ってまいりました。その後、救急医療活動への取り組み、また地域医療機関との連携による診療科の充実に取り組んで現在に至っております。また、地域の皆様方には直接の影響はございませんが、政府レベルによる発展途上国より医療関係者の研修、聖マリア病院より途上国へのスタッフの派遣、さらには災害に伴います国際緊急援助隊への医師等医療関係者の派遣を行っておりますが、これらの国際協力活動は一部の関係者、関係機関のみにしか認知されていません。

2009年4月に私どもの法人は、医療を中心とした公益事業の推進を行う法人として社会医療法人として認可されました。今後の私どもの聖マリア病院公益事業の追求、強化の一つの手段として今回“St. mary’s”の発刊を行うこととした次第であります。

今後も「カトリックの愛の精神」のもとに、すべての人が持つ「基本的人権」を尊重し、人々の「幸福」を追求してまいりますのでよろしくお願い申し上げます。

●要請あれば万体制で待ち受け

産科での出産は年間約700人、新生児科への入院は約500人です。新生児のうちほぼ半数は低出生体重児、いわゆる未熟児で、そのほかにも出生時異常や先天性の異常を抱える赤ちゃんたちがいます。早産など要因は様々ですが、どんなハイリスクの妊婦や新生児の救急にも地域の医療機関と連携しながら、いつでも応じる体制をとっています。診療所や救急隊からの要請があれば、即座に産科医、看護師、助産師らが集まり待ち受けます。万全を期すため出産の際には新生児科の医師も立ち会います。

●小児救急は官民一体で充実図る

早くから地域連携の医療体制を築いてきた小児救急では、年間約3万人(15歳以下)と全国でも有数の受け入れ実績を重ねています。2006年には、広域の7医師会の開業医、久留米大学、聖マリア病院および自治体との官民一体による「久留米広域小児救急センター」が当院の施設内で開設されました。夜間・休日の救急をはじめ小児医療の充実に大きく寄与しています。

また母子総合医療センターの特長のひとつに、「チーム医療」の取り組みを挙げることができます。医師・看護師らのほか保育士、栄養士、臨床工学技士、ソーシャルワーカーなどいわゆるコメディカル部門のスタッフが参加し、100%母乳の実践、育児不安の相談、医療福祉支援など入院から退院後に至るまでを総合的にサポートしています。

■母子総合医療センターの取り組みによって、当院は1992年にユニセフおよびWHOより日本で2番目の「赤ちゃんにやさしい病院(Baby Friendly Hospital)」に、98年には福岡県の総合周産期母子医療センターの指定を受けています。

■医療圏域は、久留米市を中心に半径50km内の筑後・筑豊・福岡都市圏と、大分・熊本の一部、さらに佐賀県が含まれます。圏域内にある中核病院および診療所と連携しながら医療に当たっています。

※各診療科の詳しい診療内容は聖マリア病院ホームページを参照ください。

ホームページアドレス <http://www.st-mary-med.or.jp>



生まれたばかりの赤ちゃんを見守る母親と看護師(産科)



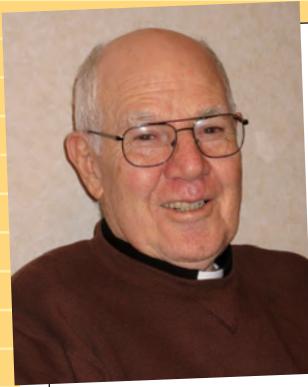
最新の医療機器のある治療室で看護師の看護を受ける赤ちゃん(新生児科)



DIARY

活動日記

私たち聖マリア病院では医療業務に全力を挙げるとともに院内慰問活動、地域イベントへのスタッフ派遣、国際協力事業など様々な活動に取り組んでいます。



YOUNGKAMP
VINCENT

ご入院中の患者さんとご家族へ

はじめまして。私は、ヤンキャンプ・ヴィンセントといいます。ひとりの人間として、いつも皆さんの隣にいて共に考え、共に喜びや苦しみを分かち合える友であります。私を見かけたら遠慮なく声をかけてください。私がほんのわずかでも、あなたの小さな力になれたら幸いです。そして、よければ一緒に祈りをささげたいと思っています。私に直接、または病棟の看護師さんにお尋ねいただければ、お部屋へもうかがいます。第1診療部前のレンガ造りの雪の聖母聖堂で、月、水、木、金曜日の午後4時から約30~40分くらい皆様の一日も早いご回復と、心の平安を願ってミサをささげています。どなたでも参加できますので、よろしかったら一度おいでください(車いすを使っている方も聖堂横のドアから入れます)。

“チャプレン”ヤンキャンプ神父様のご紹介 患者さんとともに歩み、心のケアに努める



雪の聖母会
チャプレン室
井手 健一郎

チャプレンとは、施設付きの司祭と訳され、当法人のような病院あるいは学校などで活動されるキリスト教聖職者を指します。

各施設によりチャプレンの活動内容は変わりますが、当法人の場合は、理念にもある「カトリックの愛の精神」を具現化することがチャプレンの大きな仕事の一つです。医師が病気の治療に努め、看護師が患者さんのケアをするように、チャプレンは心(あるいは魂)のケアを行い、常に患者さんのもとに行き、常に患者さんと共に歩みます。

そのほかにも、毎日のミサやカトリックの典礼による各種行事での司式、当法人が理念に沿って運営されているかの考察や検証など大切な仕事があります。

当法人には、カトリック・ミラノ外国宣教会の所属で、佐賀地区を中心にしてカトリック教会の主任司祭を務めておられましたリッカルド・マグリン神父様に、2001年よりチャプレンとしておこしいただきましたが、08年11月26日に当院ホスピス病棟にてご帰天されました。

その後、カトリック福岡教区長である宮原良治司教様のお計らいにより、ヤンキャンプ・ヴィンセント神父様が当法人においてになりました。

ヤンキャンプ神父様は、1932年4月9日、アメリカのミズリー州生まれで現在77歳です。52年に聖コロンバン会に入会され、59年には司祭に叙階されています。司祭に叙階されてすぐの60年に来日し、それ以来大分、和歌山、千葉、神奈川、熊本にて活動されておられました。熊本のマリスト学園では教鞭もとつておられました。2009年、アメリカへ療養のため一時帰国され、今年1月14日に当法人におこしいただきました。

当法人のチャプレンとしての活動の対象は、当院に入院されている患者さんとそのご家族、職員となります。カトリックの神父としては、地域の方々を含むすべての人々が対象となります。カトリックの事や、神父様、あるいはチャプレン室の活動にご興味のある方はご遠慮なくチャプレン室までご連絡ください。

聖マリア病院 外来診療体制

(平成22年3月1日現在)

● 第1診療部 3階 Aブロック | 内線:2001,2002

	月	火	水	木	金	土
消化器内科	午前	●	●	●		●
外科	午前	●	●	●	●	●
呼吸器内科	午前	●	●	●	●	●
呼吸器外科	午前		●			
リウマチ 膠原病内科	午前 ☎	※新患は紹介状持参	●		●	

●印が受け付け曜日と時間帯

☎マークが付いているところは予約制となっております

● 第1診療部 3階 Bブロック | 内線:2003

	月	火	水	木	金	土
整形外科	午前	●	●	●	●	●
小児整形外科	午後					☎ ●
脳神経外科	午前	●		●	●	
脳血管内科	午前	●	●	●	●	●
	午後	●	●	●	●	●

● 第1診療部 3階 Cブロック | 内線:2004

	月	火	水	木	金	土
形成外科	午前	●	●	●	●	●
皮膚科	午前	●	●	●	●	●
泌尿器科	午前	●	●	●	●	●
腎臓内科	午前		●	●	●	● (再来のみ)

● 第1診療部 3階 Dブロック | 内線:2005

	月	火	水	木	金	土
産婦人科	午前	●	●	●	●	●
	午後				☎ ●	
放射線科	午前	●		●		●
	午後	(新患は予約制、緊急時はこの限りではありません)	●			
血液内科 内線:2006	午前	●	●		●	
	午後				☎ ●	
緩和ケア内科	午後 ☎	(完全予約制)	●	●	●	

● 第1診療部 3階 Eブロック | 内線:2007

	月	火	水	木	金	土
精神神経科 心身症 クリニック	午前 ☎	●	●	●	●	●

● 第1診療部 3階 Fブロック | 内線:2008

	月	火	水	木	金	土
歯科・ 口腔外科	午前	●	●	●	●	●
	午後 ☎	●		●	●	●

聖マリア病院 外来診療体制

(平成22年3月1日現在)

● 第1診療部 3階 Gブロック | 内線:2009

		月	火	水	木	金	土
耳鼻 いんこう科	午前	●	●	●	●	●	●
眼科	午前	●	●	●	●	●	●

●印が受け付け曜日と時間帯

☎マークが付いているところは予約制となっております

● 第1診療部 2階 Sブロック | 内線:2125,2126

		月	火	水	木	金	土
循環器 内科	午前	●	●	●	●	●	●
小児 循環器 科	午前	(外来開始時間10:30~)					☎ ●
	午後		●			●	
心臓 血管 外科	午前	(下肢静脈瘤:火曜午前・木曜午後) ● (再来のみ) ☎ ●		● (再来のみ)	●		
	午後				●		
糖尿病 内分沁 内科	午前	●	●	●	●	●	●

● 第2診療部 1階

		月	火	水	木	金	土
小児科 内線:2021	午前	● ※小児科は15歳まで	●	●	●	●	●
	午後 ☎	●	●	●	●	●	●
新生児 科 内線:2031	午前	●	●	●	●	●	●
	午後 ☎	●	●	●	●	●	●
小児外科 内線:2026	午前	●	●	●	●	●	●
小児 歯科 内線:2053	午前	●	●	●		●	●
	午後 ☎	●	●	●		●	●
矯正 歯科 内線:2053	午前 ☎	●	●	●	●	●	●
	午後 ☎	●	●	●	●	●	●

● 診療受付時間

午前8時30分～11時30分、午後診療は予約制になっております。(夜間救急の受付は1診にて行います)

● 夜間・日曜祝日の当直体制

内科・外科・整形外科・産婦人科・形成外科・小児科・新生児科・脳神経センター・腎センター・循環器センター・画像診断部の各医師。なお、眼科・精神科についてはオンコール制(呼び出し)。

● 耳鼻いんこう科・皮膚科・歯科について

夜間・日曜祝日の診療は行っておりません。

※諸々の事情により、上記の予定に変更が生じる場合もございますが、どうぞ了承ください。

社会医療法人 雪の聖母会

聖マリア病院

(財)日本医療機能評価機構認定病院

福岡県久留米市津福本町422

TEL 0942(35)3322(代) FAX 0942(34)3115(代)

<http://www.st-mary-med.or.jp>



国際事業部
矢山 進一

旧ユーゴから技術研修員8人が来院 JICA委託の研修コースで、病院運営を学ぶ

旧ユーゴ独立国セルビア、マケドニア、ボスニア・ヘルツェゴビナにおいては、これまで復興支援として無償資金協力を通じた多くの医療機材整備支援が実施されてきました。しかし現地では病院管理という概念が浸透しておらず、医療機材の維持管理費など重要なコストに対するプライオリティが低くつけられる傾向があり、結果として、せっかく供与された機材が有効活用されていないという現状です。このことからハード面の整備だけでなく、限られた資源を効率的に活用するための病院運営・財務管理が必要とされています。

2006年から南東欧地域対象の研修コースを実施

そこでJICA(国際協力機構)は、病院運営に必要なノウハウの習得を目指した集団研修の実施を当聖マリア病院に委託し、06年度から08年度までの3年間「南東欧地域 病院運営」のコースを実施しました。

本年からは研修員の対象を従来の2~3次医療施設の管理者から、1~2次医療施設の管理者へと変更し、地域別研修「南東欧地域 医療施設運営」としてさらに3年間の研修コースを実施することとなり、09年度研修を1月25日~2月19日の日程で実施しました。



改善へのアクションプラン作成

今回の研修員は、セルビアから2人、マケドニアから2人、ボスニア・ヘルツェゴビナから4人の総勢8人でした。皆、受講態度は良好、時間にも正確で模範的な研修員でした。また研修の終盤では、研修言語であるセルビア語の通訳を担当しているコーディネーターが急病になるというハプニングに見舞われましたが、その際は英語ができる研修員が急遽通訳を買って出てくれるなど、研修員間のチームワークも抜群でした。そうして彼らがつくり上げたアクションプランは、「患者受け入れから入院までの時間短縮」、「必要な医薬品購入のための予算確保」といった、研修目的に適った実現性が高いテーマが取り上げられ、よく練られたものが多く見受けられました。こうした意味でも実り多い研修であったと思います。

各職場の職員が積極的に交流



研修を修了し帰国するにあたり、研修員たちは口々に、「職員の親切さ、礼儀正しさに感銘を受けた」、「多くの人々の協力のおかげで貴重な知識を得ることができた」など病院職員に対する謝意を述べていました。彼らが言うとおり、研修実施に際しては、講師を務めてくれた職員をはじめ、現場見学に対応した方、交流会に参加した方など、数多くの職員の協力を得ることができました。

地域医療支援病院としての役割担う

インタビュー interview

しま ひろ じ
院長 島 弘志

略歴

久留米市出身。1980年山口大学医学部卒業、81年久留米大学医学部外科学教室(第2外科)に勤務、85年聖マリア病院外科勤務、99年外科診療科長・救急診療科長、2004年救急医療センター長、06年副院長などを経て2009年4月から病院長。



——聖マリア病院の地域における役割は？

筑後地区を中心に地域の医療を支える中核病院として頑張っていきたいと思っています。昨年4月には社会医療法人という公益性の非常に高い、法人格の病院にもなりました。地域医療支援病院と合わせて、地域を支える中核病院としての意識を、今まで以上に強く持って仕事に励みたいと思っています。

——今、地域の医療が抱える課題とは？

連携という課題があります。というのも、筑後地区は医師の数が非常に多く、人口当たりにすると日本でも2番目ぐらいに多い。それがこの地域の大きな特長で、その点では医療充実への十分な下地がある。なので、もっとうまく連携をとることができれば日本中でも医療地域としてナンバーワンとなりえる。いかに連携をうまくとるかというのが今後の課題です。

——連携の具体策については？

我々医療機関の最終的な目標は、いかに早く患者さんを社会復帰させるかということですね。そのためこそ地域のコラボレーションが必要です。具体策の一つが「地域連携パス」です。これは、たとえば大腿骨^(※1)

の頸部骨折で来院された患者さんを、当院が手術をし、次は歩くためのリハビリを近隣の開業医の先生のところでやってもらう。社会復帰を地域ぐるみで早めるということです。今後、糖尿病や心筋梗塞など地域連携パスがどんどん登場してくると思います。

——どんどん広げたいところですね

課題もあります。双方の診療内容を十分に理解していない点があることです。連携の一番の問題点はそれだろうと。そこで今注目しているのが「IDリンク」です。これはそれぞれが持っている検査データなどの診療情報を、IT(情報技術)によってお互い見ることができ診療に生かすものです。福岡県ではまだ導入地域がないので、まず私たちの地域で導入する方向で考えています。

——医療情報の公開という点はいかがですか？

重要な点ですね。というのも、医療はある面ブラックボックス的な部分があると思います。信頼を得るためにも、診療内容を含めた情報をきちんと公開していくことが重要です。また、たとえばがんの5年生存率など治療実績も含めて医療情報を公開していく。がん診

健康献立

菜の花の酢味噌和え

●栄養指導管理室●



菜の花はビタミンやカルシウムなどの栄養分と食物繊維が豊富な春野菜です。選ぶときは、つぼみが小さくそろっているものを。葉の色は、鮮やかなグリーンのものが新鮮です。さっとゆでたものをラップにくるんで冷凍すると長期間保存できます。

〈当院の食事でも提供中です〉

断で威力のあるPET-CT(陽電子放出断層撮影)をすでに備えているとか、医療機器を含めて常に情報公開することによって、私たちの病院が地域の住民から選ばれる病院になれるでしょう。

——ほかに今、病院が取り組む基本方針は？

安全管理体制の確立と教育の充実です。安全管理の面は、実は一般企業に比べるとファジーなところがある。しかし、問題は我々の扱う対象が「物」ではなくて「命」だということです。ですから、どんな企業よりも真摯に取り組まなければならない。そして教育。我々は医療のプロなのですから、変化する時代の中で常に新しいものを学ぶ姿勢をもってみたい。そういう教育をしたい。この二つがあつて初めて、我々の使命である良質の医療を提供することにつながると思っています。

——当院の特徴である新生児センターとは？

私たちの病院の歴史的な強みは、救急医療と小児周産期医療にあるわけですね。とくに新生児センターは日本で知らない人はいないぐらいのものをつくり上げました。しかし、近年の一時期、地域でも俎上にのぼったように厳しい状況に陥りました。でも今は現状回復しています。救急と小児周産期、この両部門がもっともっと良くなることに関しては努力を惜しまないつもりです。

——救急医療の現状はいかがですか？

当病院は24時間365日断らないという信念でやってきました。一方、年間9,000台以上の救急車が搬送されてくる中で、我々の信念を達成するためには常に三つの課題があります。一つは従事する医師の確保、一つは受け入れる患者さんのベッドを確保するための病床コントロール、そして緊急手術に必要な手術室の確保。マンパワーについては、現体制でやり繰りする中で今後の増員が欠かせません。病床コントロールは、状況によって看護師らが連日懸命の調整で病床確保を図っています。手術室に関しては新病棟建築で新たに9室を設け現在の倍近い体制にまで充実させます。

——医療を地域振興の点でどうとらえますか？

コスト面でみても医療の分野は「一の投資をすると三の消費が生まれる」といわれています。雇用の創出も当然できますし、この街が大きく良くなっていくための一つの産業だろうと。しかも、この分野の結果は健康の維持という、大きな結果を生み出します。だから国にしても、地域づくりという面で今以上に医療・社会保障の分野にお金を投入することが重要だと思っています。

——院長が描く地域づくりのビジョンは？

街おこし的なことに医療の側からかかわっていきたい。医療においては日本中のどの街よりも安心して暮らせる街づくり、医療都市圏づくりを行っていきたい。その結果として久留米に住みたいと思う人たちがもっといっぱい増えていけばいいなあ、と思っています。医療に関しては日本一を目指したい。

——あらためて患者さんと地域へのメッセージを

私自身、久留米で生まれ久留米の町で育ってきました。今ここに来た人がお感じになると思いますが、中心街もシャッターが閉まり、さびれてきたイメージもありますが、医療を充実させることによって、この久留米に住みたいとみんなが思うような街づくりの一翼を担えるのではないかと。そのためにも私たちの病院が患者さんと地域の人たちに、きちんとした医療を提供できる体制を構築していくことが必要だと思っています。

建築予定の新病棟完成予想イラスト



(※1) 地域連携バス 検査結果や診療計画などを示したもの。病院とかかりつけ医の間で共有することで患者さんの治療・リハビリをスムーズに行うことができます。

イカ(短冊切り)	35g
菜の花	40g
カットわかめ	0.5g
味噌	8.0g
辛子粉	0.5g
砂糖	4.0g
本みりん	1ml
酢	4ml

- ①イカはボイルして、完全に火を通し、冷します。
 - ②菜の花はさっとゆでて、冷まして絞ります。
 - ③わかめは水に戻して、よく水気を切ります。
 - ④辛子粉は水から沸騰させた湯を冷ましたもので溶いていき、練りがらしにします。
 - ⑤味噌、砂糖、みりん、酒を合わせます(酢味噌)。
 - ⑥①～③と⑤の酢味噌を合わせ、練り辛子を加減しながら入れて、味を調えます。
- (参考文献:日本栄養士会「健康増進のしおり」)

病気と向き合う

ヘルコバクター除菌による胃がんの撲滅
“専門外来”の新プロジェクトを検討

胃内にはヘルコバクター・ピロリ (*Helicobacter pylori*／以下ヘルコバクター) という細菌が生存し、胃と十二指腸潰瘍の主な原因となっているため、2000年11月に胃と十二指腸潰瘍に対する治療法としてヘルコバクター除菌療法が保険適用となりました。これは胃薬と2種類の抗生物質を1週間内服する治療法です。これまで潰瘍治癒後の3年以内再発率が80%を超えていましたが、除菌により再発が大幅に減少しました。



消化器内科診療部長
酒井 輝文

しかし、ヘルコバクター感染によって引き起こされる疾患は潰瘍だけではありません。日本ヘルコバクター学会は潰瘍以外の八つの疾患を、除菌を推奨する疾患として挙げています。その中に「早期胃がんに対する内視鏡的治療後胃」という項目があり、除菌することにより胃がん再発を抑制できます。実際、北海道大学を中心として行われた臨床試験では、早期胃がん患者を内視鏡的に治療した後にヘルコバクター除菌を行うと、その後の胃がん再発が約1/3に抑制されました。

ヒトがんの約30%は感染性因子が原因となって発症すると推定され、中でも日本人のがん死亡の10%あまりを占める胃がんは、その大部分がヘルコバクターの持続感染を基盤に発症します。したがって、胃がん検診にヘルコバクター検査を合体させ、除菌治療を行うと胃がん撲滅は可能となるでしょう。

除菌により胃がん発生が約1/3に抑制されるなら、5年間で約4,100億円の医療費節減につながります。経済的な問題の解決だけでなく、胃がんにならずにすんだらどんなに幸せでしょうか。健康に長生きするためには、死に至る原因を消去する必要があります。そのため、ヘルコバクター感染者の胃がん予防の除菌治療はぜひ必要です。しかし、除菌の保険適用は胃潰瘍・十二指腸潰瘍に限られるので、胃がん予防としての除菌が困難な状況にあります。早く保険適用にしていただきたいのですが、まだまだ時間がかかりそうです。

そこで、私どもはヘルコバクターの診断と治療を希望する患者さんのために、自由診療として“ピロリ菌専門外来”を開設することを検討しています。多くの人々を、胃がんにならないようにするすばらしいプロジェクトをつくり上げようとしています。

●ご意見箱●



救急で来院したが
駐車場が遠くて不便です

敷地内南側に新病棟を建設予定で、その後隣接して立体駐車場を新設予定です。それまでの間は不自由ですがご理解願います。

同じ日に再度駐車するときに
駐車料金は必要ですか

1回目の駐車の際に、領収書を受け取り2回目の支払いのときに領収書を提示すれば無料となります。目につきやすい案内板等の設置を検討しています。

(聖マリア病院 患者さまサービス委員会)